

## 第五章 勝山町の城郭遺構

### 第一節 序

勝山町のある行橋平野は、古代から豊前国の国府が置かれ、政治の中心として栄えた。

中世になると、宇都宮氏、新田氏の一族などが、京都郡各地に城砦を築き勢力を振るった。

城といえば、高い石垣、深い堀、壮大な天守閣を持つ姫路城、小倉城、中津城などを連想するが、これらは近世（江戸時代）の城であり、中世（平安末期から戦国時代まで）の城は、近世の城のような立派なものではなく、ほとんどが山城であり、関係文書には「掻き揚げ」「切寄」などと書かれている場合もある。

山城は、天然の要害を主として、これに土塁や空堀などの人工を加えて牙城としたもので、勝山町周辺には一〇をこす城跡が残っている。

勝山町や周辺部には、山城の代表ともいえる障子ヶ岳城や馬ヶ岳城があり、土塁、堀切などの遺構をよく残している。

勝山町の二城跡と、周辺の城跡四か所、計六城跡についてま

とめてみた。なお各城跡については、文書や伝承などの城名の分かる場合はそれを記し、不明の場合は所在地名を冠した。

### 第二節 勝山町の古城跡

#### 一 障子ヶ岳城 京都郡勝山町松田

勝山町の西はずれ、田川郡と京都郡との郡境の山並みに、山頂が五段に削平された山がある。

標高四二七メートル、戦略上要衝の地であるために、幾度かの攻防が繰り返された障子ヶ岳城の跡である。

牙城跡とも呼ばれ、山頂の雑木が伐採されて中世の山城の姿が稜線に見事に再現されている。

昭和六十三年「城攻め」事業と称して勝山町民七〇〇人によるボランティア活動によって整備されたものである。

以後、毎年、春秋など年四回ほど、田川郡香春町、京都郡勝山町の両町の人々の協力で草刈りを実施している。

地元の人々が、郷土の誇りとして、史跡や文化財を大切にしているためである。

城跡は、本丸、二の丸、馬場（馬屋跡ともいう）、北の丸等の五つの曲輪からなる。

本丸は、標高四二七メートルの最高部に位置し、東西二二メートル、南北